

○山並篤史・木場達美¹⁾・岩本英伸・吉田耕起
(熊本農研せい業・¹⁾芦北地域振興局)

【目的】

本県平坦地域では水田転作やイグサの不振などから野菜栽培に取り組む農家が増加しており、水田を高度に利用できる作付体系の確立が望まれている。そこで、作付体系に組み込む品目の一つとして早熟スイートコーンを取り上げ、播種時期および品種が生育、収量に及ぼす影響について検討した。

【材料および方法】

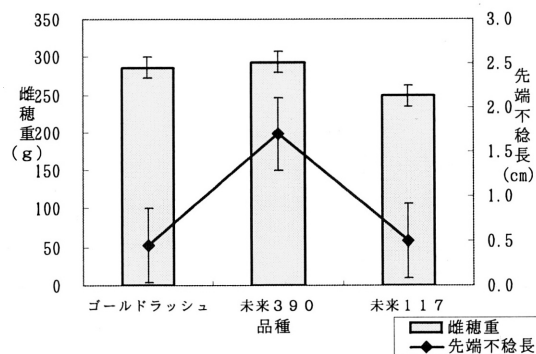
試験は2005～2007年に熊本県農業研究センターい業研究所で行った。播種日と供試品種は第1表のとおりで、畝幅140cm, 株間30cm, 条間30cmの2条植え(栽植密度466株/a)で直播した。また、直播と同時に200穴セルトレイに播種し、3葉期に移植する区を設けた。2007年1月19日播種の移植栽培には「未来390」および「未来117」を併せて供試した。黒マルチおよび幅210cmの塩化ビニル製フィルムを使用したトンネル(幅100cm, 高さ70cm)栽培とし、トンネルは4月上旬に除去した。試験規模は1区40株の2反復とした。

【結果および考察】

直播栽培では播種が早いほど収穫日が早まったが、その差は小さかった。また、2月上旬播種が最も草丈が高く、葉数が多く雌穂重が重かった(第1表)。また、2007年1月5日播種で移植栽培が直播栽培に比

べ7日早まった以外は、栽培法の違いに収穫日の差はなかった。雌穂重は移植栽培が直播栽培に比べ2005年はやや重く、2006年および2007年はやや軽かった(データ略)。品種では「ゴールドラッシュ」が雌穂重が重く、先端不稔の発生がなかった(第1図)。

以上の結果から、本県平坦地域での早熟スイートコーンでは、2月上旬播種が最も収量が多く適期と考えられたが、これは茎葉の生育量が大きかったためと思われた。品種は収量、品質面から「ゴールドラッシュ」が優れた。移植栽培の効果は判然としなかった。



第1図 雌穂重および先端不稔長の品種間差異
縦棒は標準偏差

第1表 直播栽培における播種日が収穫時の生育に及ぼす影響

年次	品種名	播種日 (月/日)	収穫日 (月/日)	雌穂重 (g)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
2005	未来390	2/ 1	6/ 6	308.5±49.0 ²⁾	140.6±10.0	10.4±0.7
		2/14	6/10	281.2±47.5	129.1± 7.1	9.3±0.7
		2/28	6/13	237.7±37.7	129.2±11.7	8.9±0.6
2006	ゴールドラッシュ	2/ 2	5/31	357.6±38.0	168.6± 7.0	8.1±0.3
		2/16	6/ 2	337.1±33.9	169.1± 8.3	8.0±0.5
	未来117	2/ 2	5/31	327.1±40.1	173.1± 9.2	9.0±0.7
		2/16	6/ 2	314.7±42.3	170.4± 6.7	8.3±0.7
2007	ゴールドラッシュ	1/ 5	5/22	284.4±30.3	135.5± 9.5	7.1±0.8
		1/19	5/25	293.2±34.3	132.8± 8.9	7.5±0.7
		2/ 2	5/25	323.6±26.0	163.4± 7.6	8.7±0.9

²⁾平均値±標準偏差